

舞鶴引揚記念館・平和祈念展示資料館(総務省委託)共同企画映像作品
戦後75年『私たちが伝える記憶 シベリア抑留をたどって』の公開について
～3月27日(土)から引揚記念館HPで、公開します～

舞鶴引揚記念館では国内外の施設と連携しながら、引き揚げ及びシベリア抑留の史実や平和の願いを発信しており、戦後75年となる2020年、平和祈念展示資料館(総務省委託・東京都新宿区)と戦争体験の継承をテーマにした映像作品を共同で企画・制作しました。

このたび完成に至り、令和3年3月27日(土)から、両館の公式YouTubeチャンネルで公開しますので、お知らせします。

戦後75年『私たちが伝える記憶 シベリア抑留をたどって』の概要

戦争体験の継承が難しくなっている今、若い世代の人たちにシベリア抑留を知ってもらいたい、体験者の記憶を伝えることの大切さを感じてほしいという思いで制作。作品の詳細については、別紙をご覧ください。

《舞鶴市撮影部分の出演者》

- ・安田重晴氏(シベリア抑留体験者)
- ・NPO法人舞鶴・引揚語りの会サポーター(中高生語り部)

引揚記念館
YouTube
チャンネル



動画の撮影の様子(安田氏の話聞くサポーター達)

【お問い合わせ先】

舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-68-0370
E-Mail：hikiage@city.maizuru.lg.jp

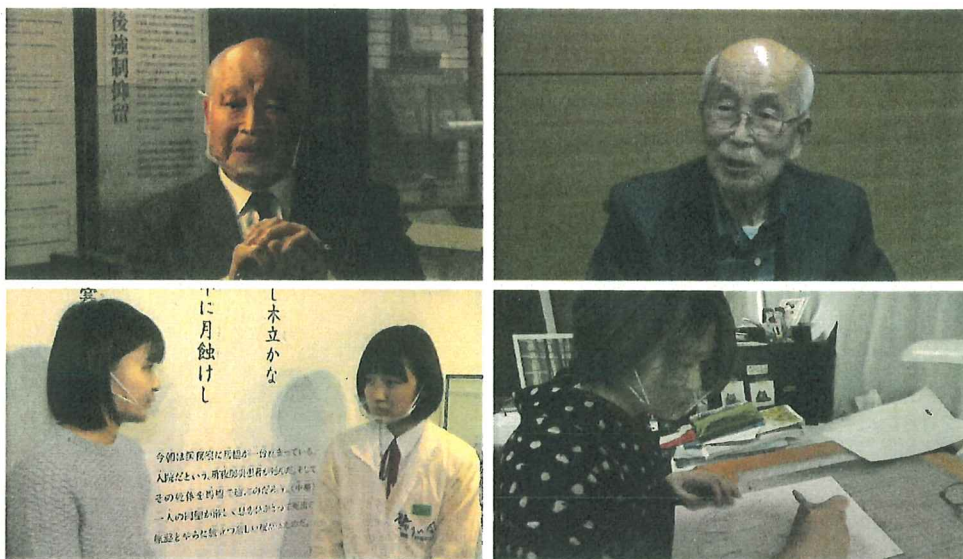


令和3年3月25日
平和祈念展示資料館

平和祈念展示資料館・舞鶴引揚記念館 共同企画映像作品
戦後75年「私たちが伝える記憶 シベリア抑留をたどって」
令和3年3月00日（曜）からYouTubeで公開

シベリア抑留に関係する資料を常設展示している2つの施設、平和祈念展示資料館（東京都・新宿区）と舞鶴引揚記念館（京都府・舞鶴市）が、戦後75年の節目となる2020年、戦争体験の継承をテーマにした映像作品を共同で企画・制作しました。

このたび完成に至り、令和3年3月27日（土）から、平和祈念展示資料館と舞鶴引揚記念館の公式YouTubeチャンネルで公開します。



作品について

戦争体験の継承が難しくなっている今、若い世代の人たちにシベリア抑留を知ってもらいたい、体験者の記憶を伝えることの大切さを感じてほしいという思いで制作しました。

作品名：私たちが伝える記憶 シベリア抑留をたどって

公開日：令和3年3月27日（土）

公式サイト：平和祈念展示資料館 <https://www.heiwakinen.go.jp>

舞鶴引揚記念館 <https://m-hikiage-museum.jp>

作品概要：大学の課題で戦争をテーマに選んだ東京に住む一人の学生。戦後75年が経ち、戦争について調べるなかで、自身の体験を語るシベリア抑留者、体験者の思いを引き継ぎ語り部となった中学生、戦争を描く次世代の漫画家たちと出会います。消えゆく記憶を後世に残そうとする人々の姿にふれ、自分の言葉で戦争を伝える側に立ちたいと、大学生は歩みはじめます。

出演：山本阿実（城西国際大学）

制作：とっておき株式会社

企画：平和祈念展示資料館、舞鶴引揚記念館

作品時間：約36分

【お問い合わせ】平和祈念展示資料館 TEL.03-5323-8709 / 舞鶴引揚記念館 TEL.0773-68-0836